

時報

東京 明治十七年十一月一日 土曜日 第八百三十三號 日曜日休刊 定價三錢

公報

○太政官第九十二號 官省院廳府縣
東京大學副總理ヲ置キ職制及ヒ俸給左ノ通相定候條此旨
相繼候事
但明治十四年(六月)第五十一號東京大學職制中事故ア
ルトキハ云々ノ一項ヲ削除ス
明治十七年十月三十一日 左大臣 熾仁親王
副總理

勅任	俸	三千六百
勅任	俸	三千
勅任	俸	二千四百
勅任	俸	二千
勅任	俸	一千六百
勅任	俸	一千二百
勅任	俸	八百
勅任	俸	六百
勅任	俸	四百
勅任	俸	三百
勅任	俸	二百
勅任	俸	一百

○東京府達第百七十號 郡區役所 戶長役場
明治十七年十月三十一日 東京府知事芳川顯正

時事新報

時事新報約購諸君へ申上候
○時事新報約購諸君御注文被成下候節は(東京横濱市中
御住居御方を除き)同時に代金御送致被成下候様奉願候
右金圓當方より到着仕候節其旨郵書を以て別に御通知は申
上其代りに毎日郵送申上候節新報の御封表面御名前の
貼に(何月何日)と記入仕置候節此日附の御封表面御名前の
金圓相切可申期日より此期日までの時事新報代價并に郵
便税とも御拂替相成候事と御承知被成下候
○時事新報約購諸君に御承知被成下候
○時事新報約購諸君に御承知被成下候
○時事新報約購諸君に御承知被成下候

左ノ一篇ハ八月廿六日附ニ在英國倫敦ノ某氏ヨリ寄送
來リタルモノナリ宗教上ノ道理ノ爲メアラズシテ國
際上ノ方便ノ爲メ日本ガ耶蘇教國タルノ必要ヲ論ズル
所ノ如キハ最モ我輩ノ意ヲ獲タルモノナリ
時事新報 記者
在英國倫敦 某

耶穌教國

人間世界ハ出入ルトノ境イ目ナレバ之レニ處スルノ方
法ハ世間一般ノ交際ヲ取ルルニ二ツナリ世界ノ交際
ガ嫌ヒトアレバ山ニ遁入ルニ如クハナシ山ニ入りテモ飯チ
喰ヒ衣服ヲ着テハヤハリ他人ト交リテ爲サチバナラスユヘ
赤裸ニテ死スルヲ云フ人々ハ世間論セズ苟モ生キテ世界ノ幸
福ヲ享ケテ云フ注文ナラバ世間並ノ附合ヒテ爲サチバ
可ラズ附合ヒテ爲サチバ風俗萬端人並ニヨリ爲サチバ
ナラズ世間ガ監禁メノ衣服ヲ着ルニ自分獨リ柿色ノ羽織ヲ
着用スルハ交際ヲ知ラザル人ナリ
國民ノ衣服トモ申ス可キモノハ宗教風俗ナリ宗教ト風俗ト
ハソノ字面間カ分ラザレバ余輩ノ眼ニハ宗教ハタマ風俗ノ
一部分ト見ユルナリ而シテ今ノ世界ハ歐米各國ノ世界ニテ
歐米後ノ支那人ヤ小作人ノ印度人ハ算用ノ外トシテ歐米ノ國
民ハ何色ノ衣服ヲ着用スルヤト云フニ耶蘇教ト云フ一種ノ

色ナリ假リニ耶蘇教ヲ以テ藍染トシ佛道ヲ柿色ト定メ
今ノ流行ハ藍染トシ柿色ヲ若シバ例ノ隱居カ小作人ニ止
マルナリ勿論コノ藍ト柿ト何レガ勝レリヤト問答スルモ詰
マリ一堪ノ水掛論ニ終リ到底是非ノ論決ハ六ヶ敷カレベク
或ハ局外ヨリ見レバ柿染ノ方カ却テ高尚ナンモ知ルベカ
ラズ併シナガク何分ニモ高尚ナル世間外ツレナル時侯後レ
ナル色ナルガユヘ今ノ世間ニ交ハラントスルニハ是非ト
モ先ツ柿色ノ衣ヲ脱シテ藍染ノ羽織ヲ着スルヲ最モ肝要
ト申ス可
只今モ一英人ト物語シタルニ英人曰ク當春埃及ノ屠殺ト云
ヒ此度佛道ノ戰爭ニ佛兵ノ舉動慘酷ナリ杯取リノ一瞬ス
レモコハ一概ニ當局將校ノ罪ニ非ズ接戦ノ際ニ兵卒トモガ
東洋人ト草木虫出ノ如クニ心得人ヲ殺スコト何トモ思ハス
ガ故ナリ平日ニ在テモ全体ニ歐洲人ガ東洋ニ往テ兎角不人
情ノ舉動アルハ皆宗旨ノ異ナルガ爲メナリ宗旨ノ異ナルガ
爲メニ人ヲ卑メト云フハ言語通斷ノ事ナレハ不學ノ商人ヤ
無智ノ兵卒ナレバ詮方モナシ東洋人ハ對シテハ誠ニ御氣ノ
毒ノ至リナリ云々
右ノ事枝葉ニ亘リタル一場ノ茶話ニ直チニ余輩ノ憂フ
ル點ニ非ザレハ國ト國トノ交際ニ於テモ必ズ同様に歎
ルベシ例ニハ條約改正ノ如キモ歐洲人ガ腕ニ力痛ヲ入レテ
是非トモ之ヲ拒ムナド云フコト有ルモ非ズ軍口心頭ニ懸ケ
ズ打捨テ置クコト云フ方ナリ日本人ノ想像スル如ク我輩求
問題ニ關シ兵力ノ強弱ヲ問ヒ富ノ有無ヲ穿鑿シタル上サテ
「グラッドストーン」氏ガ勸カス「フエリ」氏ガ承知セズ
ト云フ様ナル大キナ話シニ非ズ唯何ト無ク交リガ薄クシテ
俗ニ所謂日本人ノ寄附キガヨロシカラズナリ寄附キチヨ
クシテ交リテ深クセンコトハ先ツ宗旨ノ名目ヲ改テテ納ヒ
浴衣ヲ着用スルニ余輩ガ名目ト云フハ眞ノ名目ニテ正味
ノ御信心ハ何ニテモヨシ唯表面日本ハ耶蘇教國ナリト一應
世間ニ披露スレバ夫レニ足ルナリ
讀者中御異論ノ御方モ有ルベケレバコレヨリ讀者ノ意中
付度ヲテ少シク陳述スベシ而シテ此異論家ヲ無宗教家ト佛
教信家トノ二ツニ區別致サン
無宗教家ハ其心水ノ如ク淡冷ナリ既ニ水ノ如クナル以上ハ
宗旨ハ何ニテモ便利ニ任セ世間並ニヨリ爲サチバ可ナリ佛道
ナリ出ストカ十字架ヲヘシ折ルトカスル様ノ事ハ甚ダ角立
テヨロシカラズ或ハ我レハ無信心ナリト態々聲高カニ披露
スルモ甚ダ圓滑ナラズ歐洲ニテモ中等以上ノ人ニテ眞實ニ
宗旨ヲ信ズル人何程アリヤ大抵皆御多分ニ附キテ洗禮モ受
ケ妻子ヲモ寺ニモヤルナリ年頃ノ娘ヲ持テテ寺ニ參詣セ
ムルハ縁組ノ一端ニモナルベシ讚美歌ヲ唱ヘムルハ妙
一ツナルベシ又日本ニテ古來儒者ガ其安心ノ地ハ孔孟ノ聖
教ナレハ矢張佛事ヲ信シ慕フナリ香華ヲ手向ケルナド誠
ニ有リ勝テノコトニテ其氣象渾然タリ山崎道加中井積善杯
ガ宗旨ヲ攻撃シタルガ如キハ甚ダ種カナラズ又甚ダ拙ナリ

佛清事件

世間ノ交際ニ迂濶ナリシヲ推シテ知ル可シレバ内心ハ鬼
モ角モ差當リ耶蘇教ト云フ名目ニ爲シ置クハ甚ダ便ニテ
妙ナラズヤ
次ニ佛道家ナリ是レハ二ツニ分レリ即チ眞宗ト禪家ナリ
其他色々聞及ビテ先ツハ眞禪兩家ガ両方ノ極度ニ在ル
カト思ハル
禪家ノ宗門ハ教外別傳傳心印ナド、書ヲ高尙ニ覺テ蓋シ
西洋ノ哲學(フイロソフイ)ナルモノナリ哲學ノ眼ヨリ見
ルルハ宗旨ナドハ卑近ノモノナリ一トビ此眼光ニ照ラセバ
眞宗ノ阿彌陀モ耶蘇教ノ神(ゴット)モ同シモノニ相違ナリ
但シ眞宗ハ釋迦ニ縁アルユエ親シムベシ耶蘇教ハ先祖ヲ同
シシセザルユエ疎クベシト云ハシカ哲學ニモ似合セカラス
誠ヒト云フベシ阿彌陀經ハ漢文ナレバ「ハイアル」ハ洋文ナ
ルガユエニ嫌フト云ハシ不立文字ノ法門ニ合ハサルベシ見
角眞宗モ方便ナリ耶蘇教モ方便ナリ御多分ニ付キ便利ノ方
ガシカルベシ
○其次ガ眞宗ナリ此人々向ツテハ決シテ改宗ヲ勸ムル
コト能ハズ唯一言スベキコトハ我日本ニ耶蘇教ノ行ハルハ、ハ事
物自然ノ勢イト觀念ノ國ノ爲メト思ヒテ騒動ヲ起ササル様
靜カニ御念佛申シテ専ラ自分ノ後生ヲ大事ニスベシ親類朋
友ガ耶蘇教ニナリテ決シテ決シテ痛癢ヲ起ス可ラズ是レ
即チ柔和忍辱ノ教ニシテ阿彌陀如來ノ御本願ナリ
右ノ如ク逐條ニ論シタルレハ余輩ノ議ハ必ズモ日本國民ノ
多數ガ耶蘇教ニ入レシメントノ主意ニ非ズ少數ヲ足レリ
百人ニ一人位ニテモヨシ唯表面向キ耶蘇教國ノ名ヲ冒セハ夫
レニテ事足ルナリ信日本ガ耶蘇教國ト爲ルノ順序ヲ申セバ
戸籍上ニ宗旨ハ耶蘇教ト明記スルコト許シテ耶蘇教ノ儀式ヲ
以テ公然釋送ヲ營ムコト許シテ耶蘇教徒中ニ教導ヲ設ケテ
佛效ニ異ナル所ナカレバ(記者曰ク此寄書ハ英國本年
八月廿六日ニ發シタルモノナリ)同日日本ニテ教導職
ヲ廢更ニ五條ノ新令ヲ定メタルノ報知ヲ未ダ聞クコト及ハ
ザリト知ルベシ)夫レヨリシテ追々中等以上社會ニ勢力
ヲ有スル人々チテ洗禮ヲ受ケムルニ在ルナリ余輩ハ萬
國交際上ニ於テ日本ガ耶蘇教國ト申間ニ入ル事ノ甚ダ大切
ナルヲ信スルナリ

九月廿九日佛國の
日までの戦争も取
ラレテ新聞は
悉かれ共支那を
度鶏籠の占領を命
と諭し又同日頃等
を送りて佛國は終
に注進しる次第
りして外國人居留
決して英國は商賣
る處十月廿四日に
電報佛國政府に
は十月一日に於て
を占取せんとし同
に保壁二箇所を棄
りて此保壁と増
撃せんとす又我兵
知らざるもの一人
人にして負傷し
月二日と以て淡水
直に之を占領す可
○東京報拾遺
より載來りたる去
りたれども前報に
河内ヨリノ報ニ
「ケ」ノ三艘ハ
ル爲ニ進ミタル
ヲ佛ノ士官
ハ既ニ戰場ニ到
率キテ既ニ河内
リスル」氏ヨリ
ニ在ル支那兵ハ
爲ニ必要ナル手
テ一場ノ劇戰ヲ
死セリト尤モ此
レ且テ其死傷情
右の報に據れば市
りたるもの、如上
戰勝利を得たる中
○支那兵の無規律
を載せて曰く本日
せしが其兵卒之軍
取するの力なく
るも測られず實
掛ければ何人の
通行する時は兵
折と前報を披讀
人の外國人が右
抜け其由を備事
り又瓦石と投付
家に降りたり、
付き其述べて其